

令和7年度

沖縄県特別支援教育研究会 研修会①および第1回評議員会

令和7年6月12日(木) 15:00-16:45

@美咲特別支援学校 または Zoomミーティング



沖縄県
特別支援教育
研究会

アジェンダ ※敬称略

司会：会長補佐 山里 剛 （美咲特別支援学校教頭）

〈時間の目安〉

〈ページ〉

14：45	開場		
15：00	開会の言葉	副会長 望月雄紀（鏡原中学校 校長）	
15：02	会長あいさつ	会 長 内間秀樹（美咲特別支援学校 校長）	3
15：05 研修会			
	「 障害児への理解と教育 」		
	講師 諏訪利明 氏 （川崎医療福祉大学准教授）		
	《 質疑応答 》		
	※時間によっては省き、アンケートをとって後日回答いただく		
16：05 第Ⅰ回評議委員会			
	議題①今年度の役員体制		4-5
	議題②昨年度の事業・会計報告		6-8
	議題③沖特研運営について		9-10
	《 質疑応答・決議 》		
	議題④今年度の事業計画		11-12
	議題⑤今年度の予算・会計		13-16
	《 質疑応答・決議 》		
	議題⑥-1 今年度の研究大会		17-19
	議題⑥-2 今年度の分科会テーマ		20
	議題⑥-3 今年度の分科会役割分担		21
	議題⑦令和12年度までの分科会提案割当		22
	《 質疑応答・決議 》		
	連絡事項	①沖特研・九特連事務局輪番表	33
	連絡事項	②九特連「長崎大会」第一次案内	34
	連絡事項	③全特連「北海道大会」第一次案内	35-39
	連絡事項	④全特連功労者の推薦について	40
16：40 閉会の言葉 副会長 井手一宏 （はなさき支援学校 校長）			
16：45 閉場・アンケート回答			
			41

会長あいさつ

本沖縄県特別支援教育研究会（以下、沖縄特研という）は沖縄県特殊教育研究会として昭和40年6月に設立されました。途中、特殊教育から特別支援教育と名称の変更があったものの、今年度で設立60周年を迎えるという歴史があります。

グローバル化や人工知能、AIなどによる技術革新の急速な発展に伴い、これからの予測困難な時代の中、子どもたちが自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動することができるようになることで、よりよい社会や自分の人生を切り拓いていく力が求められています。

このような社会構造の変化に伴い、「資質・能力の明確化」・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・「カリキュラム・マネジメントの推進」等を基本方針として学習指導要領が改訂されています。

更に、特別支援学校の新学習指導要領における教育内容も

- 学びの連続性を重視した対応
- 一人一人に応じた指導の充実
- 自立と社会参加に向けた教育の充実

という観点から、改訂後の更なる改善が図られています。

目まぐるしく時代が変わる中においても、特別支援教育では障害のある幼児児童生徒の社会参加を目指すこと、そのためには一人一人の教育的ニーズに応え、途切れることなく、きめ細やかな指導・自立への支援を行うことがより一層求められます。

本沖縄特研では、教育現場で活躍されている先生方の日々の実践と子どもたちの教育的ニーズに応じた指導や支援のあり方等についての私見を広げるとともに、協議を深めることで、特別支援教育の専門性向上に資する機会にしたいと考えています。

令和7年6月吉日
沖縄県特別支援教育研究会
会長 内間 秀樹

議題① 今年度の役員体制(案)

令和7年度 沖縄県特別支援教育研究会 役員名簿 ※敬称略

作成日:令和7年6月9日

役職名	氏名	学校名	職名	電話	FAX
会長	内間 秀樹	美咲特別支援学校	校長	098-938-1037	098-938-7700
副会長	望月 雄紀	那覇市立鏡原中学校	校長	098-917-3413	098-917-3433
	井手 一宏	はなさき支援学校	校長	098-989-0192	098-989-0193
会長補佐	山里 剛	美咲特別支援学校	教頭	098-938-1037	098-938-7700
事務局長	山田 義一		教諭		
会計	嘉手納 貴弘		教諭		
ホームページ担当	西 萌子		教諭		
庶務・書記	宮城 雅貴		教諭		
監事	野口 智徳	はなさき支援学校	教頭	098-989-0192	098-989-0193
	上原 久美子	名護特別支援学校	教頭	0980-52-0505	0980-54-1486

・会長は、事務局校の校長が担当する

・副会長は、小・中学校特別支援学級・通級指導教室設置校校長会会長および次期事務局校校長が担当する

・監事は、前任および後任の事務局校教頭が担当する

・会長・副会長・事務局長は、九州地区特別支援教育研究連盟の支部長および評議員を兼任する

【小・中学校 知的障害特別支援学級設置校】

地区名	区分	役職名	氏名	学校名	職名	電話	FAX
国 頭	中	支部長	宮城 政樹	今帰仁中学校	校長	0980-51-5666	0980-51-5668
	小	副支部長	大城 豊	兼次小学校	校長	0980-56-2548	0980-56-2496
	中	評議員	野中 一葉	今帰仁中学校	教諭	0980-51-5666	0980-51-5668
	小	評議員	比屋根 梨沙	兼次小学校	教諭	0980-56-2548	0980-56-2496
中 頭	小	支部長	赤嶺 絹代	島袋小学校	校長	098-933-3365	098-932-6872
	中	副支部長	金城 均	宮里中学校	校長	098-939-3911	098-938-3206
	小	評議員	又吉 理奈	島袋小学校	教諭	098-933-3365	098-932-6872
	中	評議員	眞方 教亮	宮里中学校	教諭	098-939-3911	098-938-3206
那覇・浦添	小	支部長	儀間 実子	開南小学校	校長	098-917-3320	098-917-3360
	小	副支部長	根間 正人	内間小学校	校長	098-877-0369	098-877-0698
	中	評議員	長間 直子	仲井真中学校	教諭	098-917-3415	098-917-3435
	小	評議員	安里 とよみ	松島小学校	教諭	098-917-3325	098-917-3365
	小	評議員	與那覇 壘	湊川小学校	教諭	098-879-1974	098-879-1975
島 尻	小	支部長	大田 出	兼城小学校	校長	098-994-6321	098-994-1848
	中	副支部長	足立 克枝	大里中学校	校長	098-945-2442	098-945-1635
	小	評議員	金城 美涼	兼城小学校	教諭	098-994-6321	098-994-1848
	小	評議員	前盛 舞	兼城小学校	教諭	098-994-6321	098-994-1848
	小	評議員	仲間 翼	潮平小学校	教諭	098-992-2545	098-994-2165
	中	評議員	山城 新源	伊良波中学校	教諭	098-850-2791	098-850-1597
宮 古			調整中	調整中			
			調整中	調整中			
			調整中	調整中			
			調整中	調整中			
八重山	小	支部長	宮良 健	登野城小学校	校長	0980-83-2307	0980-83-7055
	中	副支部長	宮良 篤	石垣第二中学校	校長	0980-83-1953	0980-82-4349

・宮古・八重山地区の支部長および副支部長は、評議員と兼任することができる

【知的障害特別支援学校】

学校名	役職名	氏名	職名	電話	FAX
名護特別支援学校	支部長	下地 直子	校長	0980-52-0505	0980-54-1486
	評議員	上原 久美子	教頭		
	評議員	瀬長 英太	教諭		
	評議員	大城 智子	教諭		
美咲特別支援学校	支部長	内間 秀樹	校長	098-938-1037	098-938-7700
	評議員	仲里 智美	副校長		
	評議員	山里 剛	教頭		
	評議員	宮城 直美	教諭		
はなさき支援学校	支部長	井手 一宏	校長	098-989-0192	098-989-0193
	評議員	野口 智徳	教頭		
	評議員	儀武 建人	教諭		
沖縄高等特別支援学校	支部長	浦崎 達夫	校長	098-973-1661	098-974-1680
	評議員	友寄 英一郎	教頭		
	評議員	重田 浩典	教諭		
大平特別支援学校	支部長	古我知 博樹	校長	098-877-4941	098-876-4148
	評議員	島袋 美加	副校長		
	評議員	松本 則子	教諭		
那覇みらい支援学校	支部長	栗國 静夫	校長	098-855-7831	098-855-7832
	評議員	今村 清輝	教頭		
	評議員	小渡 晋二郎	教諭		
島尻特別支援学校	支部長	岡越 猛	校長	098-998-8240	098-998-7655
	評議員	西田 敦子	教頭		
	評議員	玉城 絵理子	教諭		
西崎特別支援学校	支部長	稲田 洋一	校長	098-994-6855	098-994-6856
	評議員	野原 小侑合	教頭		
	評議員	大城 麻紀子	教諭		
	評議員	川口 陽二	教諭		
宮古特別支援学校	支部長	濱元 伸	校長	0980-72-5117	0980-72-5320
	評議員	前川 考治	教頭		
	評議員	坂本 紀子	教諭		
八重山特別支援学校	支部長	田盛 信寿	校長	0980-86-7345	0980-86-8113
	評議員	與那城 哲	教頭		
	評議員	東盛 揚	教諭		
やえせ高等支援学校	支部長	安里 剛	校長	098-998-2401	098-998-4697
	評議員	島袋 聡	教頭		
	評議員	金城 智也	教諭		
陽明高等支援学校	支部長	赤嶺 信一	校長	098-879-3062	098-879-9520
	評議員	知念 元喜	教頭		
	評議員	又吉 幸則	教諭		
中部農林高等支援学校	支部長	新垣 博之	校長	098-973-3578	098-973-3357
	評議員	金武 圭代	教頭		
	評議員	具志 えり奈	教諭		
南風原高等支援学校	支部長	嘉数 修	校長	098-889-4618	098-889-3667
	評議員	仲松 智	教頭		
	評議員	金城 義樹	教諭		

【担当主事】

所属	氏名	職名	電話	FAX
沖縄県教育庁 県立学校教育課 特別支援教育室	松尾 道代	指導主事	098-866-2715	098-866-2718

・事務局校には、評議員3名を置く

・事務局交代の前年度（事務局2年目）は後任の事務局校に、引き継ぎのため評議員を3名置く

議題②-1 令和6年度の事業計画 (敬称略)

日時	場所	事業内容 (敬称略)
令和6年 6/14 (金) 15:00- 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第1回評議員会・研修会①
		議題 ● 今年度の役員体制 ● 昨年度の事業・会計報告 ● 今年度の事業・予算案 ● 研究大会について (一次案内) ● 諸連絡 (輪番確認、全特連について 等)
		研修 第1回「沖縄市における就学支援の取組」 講師 八幡 昌士 氏 (沖縄市教育委員会 指導部 指導課 指導係長)
7/26 (金) 12:45- 16:30	那覇みらい 支援学校 オンライン	令和7年度総会・記念講演 (研修会②)
		議題 ● 今年度の役員体制の承認 ● 昨年度の会計報告 ● 今年度の事業・予算案の承認 ● 研究大会について
		記念講演 第2回「児童生徒一人一人の学びの充実に向けて ～特別支援教育の目指す方向性」 講師 加藤 典子 氏 (文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)
8/2 (金)	佐賀県	令和6年度 九州地区特別支援教育研究連盟 第58回研究大会《佐賀 大会》 【研究主題】 共生社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して ・記念講演「これからの特別支援教育を担う教職員に求められる資質や専門性とは何か」 講師 田中 良広 氏 (帝京平成大学 人文社会学部 児童学科 小学校・特別支援コース 教授) ・沖縄からの提案者 大城和義 大宜味 中、玉城裕士 美咲特支、司会：東江紀幸 名護特支 指導助言：長谷川智子 (県立学校教育課 特別支援教育室 指導主事)
10/11 (金) 15:00- 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第2回評議員会・研修会③
		議題 ● 研究大会の運営について ● 会計進捗報告 ● 日程確認等
		研修 第3回「どの子も生き生きと学校生活がおくれる共生社会 -インクルーシブ教育システムの構築を目指して」 講師城間 園子 氏 琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 准教授
11/8 (金) 15:00- 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	沖特研 研究大会分科会関係者会・研修会④
		研修 第4回「教育支援委員会の前に一校内委員会での事前確認-」 講師城 間 園子 氏 (琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 准教授)
		内容 ●事務局からの説明 ●分科会ごとの打ち合わせ
11/21 (木) 11/22 (金)	福井県	第63回全日本特別支援教育研究連盟全国大会《福井 大会》 【大会主題】 変化する社会の中で自分らしさを生かし 生き生きと輝く子どもたち ～教育的ニーズに基づいた一人一人の育ちを求めて ・記念講演「一人一人が自分を表現できる未来へ」 講師 前田 謙利 氏 (書家 プレゼンテーションクリエイター) ・沖縄からの提案者等なし
12/13 (金) 9:30- 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	第52回 沖縄県特別支援教育研究会 研究大会 【大会主題】 沖縄県における持続可能な特別支援教育の質の向上を目指して ～知的障害児の各教科等を通じた多様な学びの保障～ ・記念講演「自閉症スペクトラム当事者からみた特別支援教育」 講師 綿貫 愛子 氏 NPO 法人東京都自閉症協会 ・名護特別支援学校 公開授業・分科会 (計7分科会)
		第3回評議員会・研修会⑤
2/21 (金) 15:00- 16:45	名護特別 支援学校 オンライン	議題 ●研究大会の報告 ●今年度の事業・会計進捗報告 ●次年度の事業・予算案 ●次年度の研究大会について ●諸連絡 (研究集録の配布、役員の氏名報告)
		研修 第5回「校内教育支援会議の進め方 -教育支援会議の事前確認とその後-」 講師城間 園子 氏 (琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 准教授)
3月頃	名護特別 支援学校	会計監査 監事 (美咲特支 教頭)・(大平特支 教頭) 事務局引き継ぎ (美咲特支)

議題②-2令和6年度 沖縄県特別支援教育研究会 最終決算報告書

収入の部 1,297,231 円
 支出の部 624,024 円
 673,207 円

I 一般会計

1. 収入の部

	科 目	予 算 額	決算額	増減	摘 要・備 考
1	沖特研会費（分担金）	321,000	674,300	-13,500	1,039学級（小中592、特支447） 【R5 1,070学級】 *全市町村・学校から徴収中（2/25現在 99%）
2	全特連分担金	267,500			
3	九特連負担金	99,300			
4	大会資料費（参加費）	132,000	108500	-23,500	参加者一人あたり500円（参加者217名、来賓等20名）
5	寄 付 金	0	0	0	
6	繰 越 金	466,097	466,097	0	
7	その他		48334	48,334	利息(298円)・沖情研より7月沖情研合同開催記念講演運営費折半分(48,036円)
	合 計	1,285,897	1,297,231	11,334	

※ 沖特研会費（分担金）・全特連分担金・九特連負担金について
 小・中特別支援学級は各市町村教育委員会より徴収（那覇市は各小中学校）
 特別支援学校は各学校より徴収

2. 支出の部

	科 目	予 算 額	決算額	残金	摘 要・備 考
1	印刷費	80,000	79464	536	大会要項、研究集録
2	報償費	60,000	0	60,000	講師謝礼金
3	大会運営費	50,000	32,410	17,590	役員弁当、諸経費
4	通信費	65,000	73,295	-8,295	切手、郵送料、zoom契約料等
5	会議費	5,000	84	4,916	湯茶代
6	旅費	200,000	51,230	148,770	会計監査、講師等旅費など
7	事務費	35,000	17600	17,400	封筒、事務用品代、SSD代
8	全特連分担金	259,750	255,866	3,884	*振込手数料366円を含む
9	九特連負担金	98,700	98,800	-100	*振込手数料100円を含む
10	予備費	413,797	14,275	399,522	全国大会参加費・集録費・講師への贈答品（真地小分担金返金）
11	積立費	1,000	1,000	0	次回九特連沖縄大会積立金
	合 計	1,268,247	624,024	644,223	

II 九特連大会積立金

次回九特連沖縄大会積立金(令和6年度)	1,692,139	*令和6年度末までの合計額
---------------------	-----------	---------------

※ 令和6年4月に積み立て利子7円、10月に229円あり。

会計監査報告

令和6年度沖縄県特別支援教育研究会の下記の書類について会計監査を実施しました。

その結果、すべての書類が正確に完備され、収入が適正処理されていることを確認しました。

ここに、会計事務が適正なることを承認し、監査の報告といたします。

記

1. 令和6年度沖縄県特別支援教育研究会決算書
2. 令和6年度沖縄県特別支援教育研究会金銭出納簿
3. 令和6年度証憑書綴り
4. 琉球銀行 普通預金通帳：一般会計
5. ゆうちょ銀行 総合口座通帳：九特連大会積立金

令和7年3月21日

監査員 島袋 美加



監査員 玉城 工



沖縄県特別支援教育研究会とは

令和7年4月

1. 会の目的

沖縄県特別支援教育研究会（沖特研）は、特別な教育的支援を必要とする知的障害等発達障害のある幼児・児童・生徒の教育の発展と、実践研究の推進に寄与することを目的としています。

2. 沿革

沖特研は、昭和40年6月に「沖縄県特殊教育研究会」として設立されました。平成14年度に会の名称を「沖縄県特別支援教育研究会」に変更し、令和7年現在では沖縄本島と宮古・八重山地方などの離島地域を含め、知的障害特別支援学級を設置する小・中学校6支部（地区の研究会を含む）と特別支援学校（高等支援学校を含む）14支部で組織されています。

3. 会員

沖特研の会員は、沖縄県内の知的障害学級を担当するすべての教員です。また上部組織として、九州地区特別支援教育研究連盟・全日本特別支援教育研究連盟があります。各団体のホームページにて各会規約をご参照下さい。

※ 全特連規約 http://zentokurenhp.world.coocan.jp/gaiyou/index_kiyaku.html

※ 九特連規約 http://www.okitokuken-as.open.ed.jp/kiyaku_kyutokuren.pdf

※ 沖特研規約 <http://www.okitokuken-as.open.ed.jp/post-5.html>

4. 事務局および役員

沖特研の運営は、知的障害特別支援学校が2年ごとの輪番で事務局を担当しています。また役員として、各支部より支部長・副支部長・評議員が選出されます。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事務局	名護特支		美咲特支		はなさき支援
沖特研研究大会	第51回大会	第52回大会	第53回大会	第54回大会	第55回大会
九特連研究大会	第57回大会 〈福岡大会〉	第58回大会 〈佐賀大会〉	第59回大会 〈長崎大会〉	第60回大会 〈大分大会〉	第61回大会 〈熊本大会〉

5. 今年度の組織 ※敬称略

会長： 内間秀樹（美咲特別支援学校 校長）

副会長： 望月雄紀（那覇市立鏡原中学校 校長）

副会長： 井手一宏（はなさき支援学校 校長）

会長補佐： 山里 剛（美咲特別支援学校 教頭）

監事： 上原 久美子（名護特別支援学校 教頭）

監事： 野口智徳（はなさき支援学校 教頭）

6. 今年度の事業計画と研究大会テーマ

日にち	内容
6月12日(木)	第1回 評議員会・研修会①
7月25日(金)	令和7年度 総会・記念講演（研修会②） 「調整中」 講師 原田浩司氏（筑波技術大学）
10月9日(木)	第2回 評議員会・研修会③
11月13日(木)	研究大会分科会関係者会・研修会④
12月12日(金)	令和7年度 沖縄県特別支援教育研究会 第53回研究大会 【大会主題】「変化する社会の中で主体的に活動する子どもの育成」 ～ 指導と評価の一体化に基づく分かりやすい授業づくり ～ ・記念講演 後野 文雄氏（大津市教育委員会アドバイザー） ・分科会（計6分科会予定）
2月20日(金)	第3回 評議員会・研修会⑤

《問い合わせ》



沖縄県
特別支援教育
研究会

令和7年度 事務局
山田義一・宮城 雅貴
嘉手納 貴弘・西 萌子

県立美咲特別支援学校沖縄県沖縄市美里四丁目18番1号
TEL： 098-938-1037 FAX： 098-938-7700
MAIL： okitokuken@as.open.ed.jp
HP： <http://www.okitokuken-as.open.ed.jp>



議題③-2 今年度の沖特研運営について

本研究大会が発足して、60 年。本研究会は上位団体に全日本・九州地区特別支援教育連盟があり、文科省や各教育委員会の外郭団体的な様相もあり、特別支援教育の持続・継続・推進に必要不可欠といえます。今後も本県の特別支援教育に寄与するため、アフターコロナ時代の転換、教職院の働き方改革など昨今の社会情勢を踏まえて、その活動の在り方についても見直しが必要になっています。これまでの本研究会運営の中で取り組んできたことを生かしつつ、持続可能な本研究会・運営を目指して、会員の皆様とともに議論が深めればと考えております。今後も研究会としての活動を継続・発展していけるように、これまでの事務局の取り組みを引き継ぎながら、よりよい研究会となるよう尽力いたします。

持続可能な沖特研運営に向けて

会運営の協力体制の構築

- ・ 県立学校教育課
- ・ 各教育事務所
- ・ 各教育委員会への協力依頼

オンラインの活用

- ・ Zoom の活用
- ・ 研修会、研究大会などのオンデマンド配信

情報発信

- ・ 研修会、研究大会などの告知
- ・ ホームページの活用

研究大会分科会などの見直し

- ・ 参加者にとって実りある分科会となるよう、分科会運営の在り方を模索する。

引き継ぎ

- ・ 各種様式や引き継ぎデータの整理

議題④令和7年度の事業計画(R7年6月現在) (敬称略)

日時	場所	事業内容 (敬称略)
令和7年 6/12(木) 15:00- 16:45	美咲特別 支援学校 オンライン	第1回評議員会・研修会①
		議題 ● 今年度の役員体制 ● 昨年度の事業・会計報告 ● 今年度の事業・予算案 ● 研究大会について (一次案内) ● 諸連絡 (輪番確認、全特連について 等)
		研修 第1回「障害児理解」(仮) 講師 諏訪利明氏 (川崎医療福祉大学准教授)
7/25(金) 12:45- 16:30	美咲特別 支援学校 オンライン	令和7年度総会・記念講演 (研修会②)
		議題 ● 今年度の役員体制の承認 ● 昨年度の会計報告 ● 今年度の事業・予算案の承認 ● 研究大会について
		記念講演 第2回 演題「未定」 講師 原田浩司氏 (筑波技術大学)
8/1 (金) 9:30- 16:20	長崎県 ※オンデマ ンド 配信予定	令和7年度 九州地区特別支援教育研究連盟 第59回研究大会《長崎大会》 【研究主題】共生社会の中で多様な子供の可能性を引き出す特別支援教育の推進 ～学びの連続性と学びの場の充実に向けて～ ・記念講演「多様な子供へのキャリア発達支援と評価～キャリアパスポートの活用を通して」 講師 菊地 一文氏 (弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授) ・沖縄からの提案者: 南風原高支、八重山地区中学校
10/9(木) 15:00- 16:45	美咲特別 支援学校 オンライン	第2回評議員会・研修会③
		議題 ● 研究大会の運営について ● 会計進捗報告 ● 日程確認等
		研修 第3回「問題行動 コミュニケーションについて」(仮) 講師 門真一郎氏 (児童精神科医)
10/23(木) 10/24(金)	北海道	第64回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会《北海道大会》 【大会主題】特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・ 支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して ・記念講演 「一人一人の良さや強みを生かした、子供主体の学びの実現」 ～一人一人に合った学びの場や授業づくり～ 講師 竹林地 毅氏 (広島都市学園大学 教授) ・沖縄からの提案者等 なし
11/13(木) 15:00- 16:45	美咲特別 支援学校 オンライン	沖特研 研究大会分科会関係者会・研修会④
		議題 ● 事務局からの説明 ● 分科会ごとの打ち合わせ
		研修 第4回「構造化など具体的な支援について」(仮) 講師 安部陽子氏 (川崎医療福祉大学非常勤講師)
12/12(金) 9:30- 16:45	美咲特別 支援学校 ※一部オンデ マンド配信予 定	第53回 沖縄県特別支援教育研究会 研究大会 【大会主題】変化する社会の中で主体的に活動する子どもの育成 ～指導と評価の一体化に基づく分かりやすい授業づくり～ ・記念講演 演題「未定」 講師 後野 文雄氏 (大津市教育委員会アドバイザー) ・美咲特別支援学校 公開授業 分科会 (計6分科会予定)
2/20(金) 15:00- 16:45	美咲特別 支援学校 オンライン	第3回評議員会・研修会⑤
		議題 ● 研究大会の報告 ● 今年度の事業・会計進捗報告 ● 次年度の事業・予算案 ● 次年度の研究大会について ● 諸連絡 (研究集録の配布、役員の氏名報告)
		研修 第5回「未定」 講師 野畑光代氏 (元 特別支援学校教諭)
3月頃	美咲特別 支援学校	会計監査 監事 上原久美子 (名護特支 教頭)・野口智徳 (はなさき支援 教頭) 事務局 (美咲特支)

沖特研・九特連の会計に関する確認事項

【確認事項】

○ 分担金（会費）徴収に関する日程について（沖縄県内）

- 5月12日 分担金納入依頼公文発送（各市町村教育委員会、各学校宛）
※R3年度から5月に発送（R3年度から学級数の報告を自己申告に変更）
- 6月12日 第1回評議員会：納入状況確認①
- 7月中旬 分担金未納団体に再度請求（督促）
- 7月25日 総会：納入状況確認②
- 9月下旬 「次年度分担金予算計上依頼公文」発送 各市町村教育委員会、各学校宛
- 10月9日 第2回評議員会：納入状況確認③

○ 沖特研の旅費について

1. 令和3年度から本島内の出張については研究会からは旅費を支給しない。（沖情研が分離したことによる予算減のため。）

【参考】

○令和元年度までの沖特研旅費について

- ・ 本島内は1人500円を研究会から支給（遠隔地は1,000円）していた。
- ・ 離島は学校割り当て旅費から支給（公費支給）していた。
- ・ 評議員会1回開催するために約30,000～45,000円の支出が必要であった。
- ・ 年間（評議員会、総会、関係者会、研究大会）約250,000円の支出

○九特連の予算について

1. 令和4年度の九特連沖縄大会後の繰越金は約168万円（リモート開催のため、支出が少なかった）。
2. 令和4年度の第3回評議員会にて承認された通り、次回（5年後）の九特連沖縄大会に向けて、年額1,000円を積み立てる。

【参考】

- ・ H25の前々回大会後より毎年10万円（R2,3は20万円）を積み立ててきた。
- ・ 九特連では、各県の研究会から負担金を徴収しており、例年は約80万円の収入がある。また、全特連から約24万円（R3）の補助金がある。これらを事務局担当県が九特連の運営に充てている。

○沖特研大会参加費について

1. 原則対面での大会開催であり、大会運営に係る費用として昨年度同様、大会参加費を500円とする。（令和6年度第3回評議員会にて次年度の予算案として提案を行い、承認されている。今年度も研究集録の冊数や積立金の見直し、旅費支給者の精選、等を継続的に行い、原則沖特研分担金と大会参加費で賄えるような運用を行い、不足分に関して繰越金を充てていく。）

【参考】

- ・ 令和3,4年度は新型コロナ感染症予防の観点から、リモートでの開催を行い、資料は各自でダウンロードする形で沖特研大会資料費（参加費）は取っていなかった。
- ・ 対面での大会参加費（～R1）は1,000円であった。沖特研分担金と大会参加費が主な収入源であり、例年の当番校は全職員参加（大会参加費負担）している。

令和7年度 沖縄県特別支援教育研究会 予算書(案)
(九特連負担金、全特連分担金を含む)

収入の部 1,486,807 円

支出の部 1,486,807 円

0 円

(残金は次年度に繰越)

I 一般会計

1. 収入の部

	科 目	予 算 額	摘 要	備 考
1	沖特研会費(分担金)	330,600	300円×学級数(知的)	1,102学級(小中594、特支508)
2	全特連分担金	275,500	250円×学級数(知的)	R4年度途中で300円→250円/学級の変更あり
3	九特連負担金	99,000	150円×学級数(知的)	5学級以上の学校は一律750円 4学級以下595学級×150円 5学級以上13校×750円
4	大会資料費(参加費)	108,500	参加者一人あたり500円	参加人数:217人(事務局職員を含む) ※R6年度の大会実績で試算
5	寄 付 金	0		
6	繰 越 金	673,207		R6年度より
	合 計	1,486,807		

※ 沖特研会費(分担金)・全特連分担金・九特連負担金について

小・中特別支援学級は各市町村教育委員会より徴収(那覇市・嘉手納町は各小中学校)

特別支援学校は各学校より徴収

2. 支出の部

	科 目	予 算 額	摘 要	備 考
1	印刷費	80,000	大会要項、研究収録	
2	報償費	60,000	講師謝礼金	
3	大会運営費	50,000	白紙、役員弁当、諸経費	
4	通信費	75,000	切手、郵送料、zoom契約料等	
5	会議費	5,000	湯茶、菓子代	
6	旅費	200,000	会計監査、全特連大会旅費(会長)、 九特連大会旅費(提案者等)、講師等 旅費	※R3年度より原則として県内旅費については支出していない
7	事務費	35,000	トナー、封筒、事務用品代	
8	全特連分担金	275,500	250円×学級数	※R4年度に規約改正300円→250円
9	九特連負担金	99,000	150円×学級数 ※5学級以上の学校は750円	
10	予備費	606,307		
11	積立費	1,000	R7年度九特連沖縄大会積立金	
	合 計	1,486,807		

II 九特連大会積立金

次回九特連積立金(令和6年度)	令和6年度までの 積立金	令和7年度積立金	令和7年度時点での合計額
	1,692,139	1,000	1,693,139

※ 令和3年度より沖情研は会計が完全に別に分かれる。

議題⑤-2 令和7年度 沖縄特研 分担金納入状況 (No.1)

2025/5/30 31%

	特別支援学校	納入日	金 額		市町村教育委員会	納入日	金 額
1	名護特別支援学校			1	国頭村教育委員会	5/26	2,100
2	美咲特別支援学校			2	大宜味村教育委員会		
3	大平特別支援学校			3	東村教育委員会		
4	島尻特別支援学校	5/23	43,100	4	今帰仁村教育委員会		
5	宮古特別支援学校	5/29	11,200	5	本部町教育委員会	5/29	6,300
6	八重山特別支援学校			6	名護市教育委員会		
7	西崎特別支援学校			7	宜野座村教育委員会		
8	沖縄高等特別支援学校			8	金武町教育委員会		
9	はなさき支援学校	5/28	23,850	9	伊江村教育委員会	5/27	2,100
10	やえせ高等支援学校	5/30	2,100	10	伊平屋村教育委員会	5/22	1,400
11	中部農林高等支援学校	5/21	2,100	11	伊是名村教育委員会		
12	陽明高等支援学校			12	恩納村教育委員会		
13	南風原高等支援学校	5/29	4,050	13	うるま市教育委員会		
14	那覇みらい支援学校			14	読谷村教育委員会		
86,400					嘉手納町教育委員会	学校毎納入(No.2参照)	
				15	沖縄市教育委員会	5/30	42,700
				16	北谷町教育委員会		
				17	宜野湾市教育委員会		
					北中城村教育委員会		
				18	中城村教育委員会		
				19	西原町教育委員会		
					那覇市教育委員会	学校毎納入(No.2参照)	
				20	浦添市教育委員会		
				21	久米島町教育委員会		
				22	南大東村教育委員会	5/29	700
				23	北大東村教育委員会	5/22	1,400
				24	豊見城市教育委員会	5/29	14,700
				25	糸満市教育委員会		
				26	南城市教育委員会	5/30	13,300
				27	八重瀬町教育委員会		
				28	与那原町教育委員会	5/30	5,600
				29	南風原町教育委員会		
				30	渡嘉敷村教育委員会		
				31	座間味村教育委員会		
				32	粟国村教育委員会		
				33	渡名喜村教育委員会		
				34	宮古島市教育委員会		
				35	多良間村教育委員会	5/26	700
				36	石垣市教育委員会	5/29	16,800
				37	竹富町教育委員会		
				38	与那国町教育委員会	5/30	700

議題⑤－2 令和7年度 沖特研 分担金納入状況 (No.2)

2025/5/30

31%

	那覇市小学校	納入日	金 額		那覇市中学校	納入日	金 額
1	曙小学校			1	安岡中学校		
2	安謝小学校			2	首里中学校		
3	城東小学校	5/29	1,400	3	真和志中学校		
4	城北小学校			4	石田中学校		
5	城西小学校	5/27	1,400	5	松城中学校		
6	城南小学校			6	那覇中学校	5/26	1,400
7	真嘉比小学校	5/26	700	7	上山中学校		
8	泊小学校			8	神原中学校	5/29	700
9	大道小学校	5/22	1,700	9	寄宮中学校	5/19	1,400
10	松川小学校			10	古蔵中学校		
11	識名小学校			11	小禄中学校	5/27	2,100
12	壺屋小学校			12	松島中学校		
13	若狭小学校	5/22	700	13	城北中学校		
14	天久小学校			14	鏡原中学校	5/19	1,400
15	那覇小学校			15	仲井真中学校		
16	神原小学校			16	金城中学校		
17	真和志小学校			17	石嶺中学校		
18	与儀小学校	5/19	1,400				
19	城岳小学校						
20	天妃小学校						
21	開南小学校	5/20	700				
22	小禄小学校				嘉手納町小中学校	納入日	金 額
23	高良小学校			1	嘉手納小学校	5/29	1,400
24	宇栄原小学校			2	屋良小学校		
25	松島小学校			3	嘉手納中学校		
26	古蔵小学校						
27	大名小学校						
28	上間小学校						
29	石嶺小学校						
30	仲井真小学校						
31	金城小学校						
32	小禄南小学校	5/21	2,100				
33	真地小学校						
34	さつき小学校						
35	銘苅小学校						
36	垣花小学校						

沖特研会計に関する確認事項

○：必要 ×：不要 （事務局）：沖特研事務局負担 （各所属）：各所属の対応に準ずる（事務局より支給なし）

【沖特研 研究大会参加費等の取り扱いについて】

No		宿泊費	旅費	謝金	参加費	弁当	備考
1	来賓	×	×	×	×	○ (事務局)	大会後援団体の長 県教委教育長/特別支援教育課 総セ特別支援教育班長 沖縄市教育長/教育委員会 ほか
2	沖特研 本部役員	×	○※事務局校以外 (事務局)	×	×	○ (事務局)	副会長および監事
3	沖特研 各支部役員	×	○ (各所属)	×	○ (各所属)	○※必要に応じて (各所属)	各支部長・副支部長・評議員
4	講演講師	○ (事務局)	○ (事務局)	○ (事務局)	×	○ (事務局)	後野文雄氏（大津市教育委員会アドバイザー）
5	分科会助言者	○※ (各所属) ※	○ (各所属) ※	○※ (事務局) ※	×	○ (事務局)	※県教委、総教センター、校長は不要
6	分科会各係 (提案者含む)	○※必要に応じて (各所属)	○ (各所属)	×	○ (各所属)	○※事務局校以外 (事務局)	
7	一般参加者	○※必要に応じて (各所属)	○ (各所属)	×	○ (各所属)	○※必要に応じて (各所属)	

【沖特研評議員会・総会等の旅費等の取り扱いについて】

No		宿泊費	旅費	謝金	参加費	弁当	備考
1	来賓	×	×	×	×	×	
2	沖特研 本部役員	×	○※ (事務局)	×	×	×	※挨拶のある本部役員
3	沖特研 各支部役員	×	○ (各所属)	×	×	×	各支部長・副支部長・評議員
4	講演講師	○ (事務局)	○ (事務局)	○ (事務局)	×	○※必要に応じて (事務局)	原田浩司 筑波技術大学
5	会員	○※必要に応じて (各所属)	○ (各所属)	×	×	×	

議題⑥-Ⅰ 今年度の研究大会

令和7年度

第53回沖縄県特別支援教育研究会 研究大会（一次案内）

- 大会主題 変化する社会の中で主体的に活動する子どもの育成
～指導と評価の一体化に基づく分かりやすい授業づくり～

●開催趣旨

2020年代を通じて実現を目指す学校教育が「令和の日本型教育」とされ、その姿が「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」と示された。特に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められている。そのために、ICTは必要不可欠なものであるということから、これまでの実践とICTを最適に組み合わせて活用していく必要がある。また、多様な子どもたちのウェルビーイングを実現していくためにも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の興味・関心や教育的ニーズ、発達や学習の課題を適切に捉え、指導と評価の一体化を図った授業づくりが重要となる。

本大会でも全ての子どもたちの可能性を引き出す、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを目指し、分かりやすい授業づくりと学びの連続性の実現に務める必要がある。

大会主題を「変化する社会の中で自分らしく主体的に活動する子どもの育成を目指して～指導と評価が一体化された分かりやすい授業づくり～」とした。特別支援教育の在り方を県内各地からの実践報告や協議を深めることを通して互いに研鑽を深め、専門性を高めることにより、本県における特別支援教育の更なる発展・充実を目指していきたいと考えています。

- 会 場 沖縄県立美咲特別支援学校 体育館他

- 期 日 令和7年12月12日（金） 9：30～16：30 ※特別時間割12：00下校
2校時に公開授業があります。

午前：公開授業及び学校見学

午後：記念講演 講師 後野文雄氏（特別支援教育士スーパーバイザー）

演題「調整中」

分科会（6分科会予定）

- 主 催 沖縄県特別支援教育研究会

- 後 援 沖縄県教育委員会（予定） 沖縄市教育委員会（予定）
沖縄県特別支援教育校長会（予定）
沖縄県小・中学校特別支援学級・通級指導教室設置校校長会（予定）
沖縄県特別支援学校PTA協議会（予定）

●参加対象 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教職員、保育園の職員、障害のある子を持つ保護者やご家族、そのほか特別支援教育に従事または関心のある皆さま

●参加費用 500 円

●日 程 ※下記の日程については、令和7年度6月現在での予定で今後変更の可能性あります。

時間	9:30	9:55 - 10:40	10:40 - 12:45	13:00 - 14:40	15:00 - 16:40
日程	受付	公開授業 (2校時)	休憩・ 教材見学など	開会行事 記念講演	分科会

●記念講演

演 題：「 未定 」 講 師 後野文雄（特別支援教育士スーパーバイザー）

●分科会とテーマ

研究会では下記の6分科会において、特別支援学級・特別支援学校より1件ずつ実践事例の提案があります。また、提案後は、分科会ごとのテーマに沿った研究協議が行われ、専門家による指導助言を受けます。

分科会	テーマ
① 各教科の指導（小学部段階）	各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別の指導の在り方
② 各教科の指導（中学校・高等学校段階）	各学校間の学びの接続を意識した教科別の指導の在り方
③ 各教科を合わせた指導	生活年齢に応じた生活に必要な生きる力の育成を目指した各教科を合わせた指導
特別の教科 道徳・特別活動・総合	社会生活で必要な基礎的な部分の定着及び個性の充実を目指す授業づくり
④ 自立活動	一人ひとりの教育的ニーズに応じた知的障害児に必要な自立活動の指導
⑤ キャリア教育・進路指導	義務教育段階からの一貫したキャリア教育の充実
⑥ 交流及び共同学習	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習

《問い合わせ》



沖縄県
特別支援教育
研究会

令和7年度 事務局
山田義一・宮城雅貴
嘉手納貴弘・西萌子

県立美咲特別支援学校 沖縄県沖縄市美里四丁目18番1号
TEL： 098-938-1037 FAX： 098-938-7700
MAIL： okitokuken@as.open.ed.jp
HP： <http://www.okitokuken-as.open.ed.jp>



〈参考 提案内容〉

- ・昨年度（R 6 年度）から、テーマは同じで下記のような分科会を運営する。

第 1 ～ 3 分科会について

- ・第 1 分科会及び第 2 分科会は「各教科の指導」とし、各教科等にふくまれていた「領域等の指導（特別の教科道徳・外国語活動・特別活動・総合的な学習（探求）の時間）」は第 3 分科会の「各教科等を合わせた指導」と合わせる。 ※自立活動は独立した分科会があるため含まない。

（理由）

- ・「各教科等を合わせた指導」は知的障害のある児童生徒に対して効果的な指導を進めるため、特に必要のあるときは各教科等を合わせて授業を行うことができるとされていることから知的障害教育の特色ある指導の形態といえる。しかし、今次の学習指導要領により、知的障害教育において各教科等における資質・能力を確実に育成するため、より一層「教科別指導」が重視されていることから、県内知的特別支援学校において指導の形態として「各教科等を合わせた指導」を実践している学校が減少している。したがって、第 3 分科会の取り扱いについて再考する必要がある。
- ・領域等の指導は、各教科等を合わせた指導から教科別指導を重視する教育課程の再編成と相まって、重要性を増している。領域等の指導を第 3 分科会に取り入れることで、領域等の指導の在り方や方法についても焦点を当てて、協議できる機会となる。

※九特連の提案割当て「第 3 分科会」と割り当てられた場合（令和 10・11 年度予定）は、他の県と調整できるよう九特連事務局に現段階から相談する。分科会の交代によって提案割当てに変更があった場合は、変更後のテーマを担当する支部が九特連提案を担うこととする。

第 7 分科会について

- ・令和 5 年度までは、課題別テーマの 1 枠は当該年度の事務局が担い、もう 1 枠を事務局が課題に応じて依頼することになっているが（令和 7、8 年度においてはそれぞれ八重山特支と島尻特支が割り当てられており、もう一枠の提案者を事務局が探すことになっている）、新たに分科会テーマを設定するよりも、提案者輪番が既に決まっている既存の 6 分科会に焦点を当て、協議を進めていきたいことから、原則、第 7 分科会は設定しないこととする。
- ・昨今の教育的課題等により、第 7 分科会の設置が特に必要と事務局校が判断する場合は、テーマ設定及び提案者選出・依頼を事務局が行い、評議員会等で提案する。

※懸念される九特連との関係について、九特連の分科会において第 6・7 分科会は開催県が独自にテーマ設定することになっており、沖特研のテーマとは異なる場合がある。九特連分科会において本県が第 6・7 分科会を割り当てられたら、テーマに応じてその年の事務局校が対応にあたる。（事務局校からの発表者の選出、または小中発表者への依頼。）

議題⑥-2 今年度の分科会テーマ

分科会		九特連のテーマ	R7 全特連のテーマ	今年度のテーマ	討議の柱の例 ※全特連参考
1	各教科の指導 (小学校段階)	学習内容の系統性や(他教科等との)関連性を踏まえた教科別指導のあり方	一人一人の資質・能力の育成を目指す授業づくり	各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別の指導の在り方	○自分のよさを実感し、社会で生きる資質・能力の育成 ○個に応じた
2	各教科の指導 (中学校・高等学校段階)	学習内容の系統性や(他教科等との)関連性を踏まえた教科別指導のあり方	一人一人の資質・能力の育成を目指す授業づくり	各学校間の学びの接続を意識した教科別の指導の在り方	○教科学習において、じぶんらしく表現するための工夫 ○表現力を高めるための学習活動の在り方
3	各教科等を合わせた指導	一人一人の児童生徒の生きる力を育む各教科等を合わせた指導のあり方	一人一人の自立と社会参加に向けた生活する力の育成と学びの連続性を意識した指導の実践	生活年齢に応じた生活に必要な生きる力の育成を目指した各教科等を合わせた指導	○主体性「やりたい」「分かる」「できる」を引き出すための工夫 ○自立と社会参加を促す(目指した)指導の在り方
	特別の教科 道徳・特別活動・総合的な学習	《分科会設定なし》	《分科会設定なし》	社会生活に必要な基礎的な部分の定着及び個性の充実を目指す授業づくり	○主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決するための指導の在り方 ○自らを律しつつ、他人と共に協調力を向上させる工夫
4	キャリア教育・進路指導	児童生徒がやりがいをもって自己のキャリアを形成し、主体的に自立と社会参加を目指すための進路指導のあり方について	一人一人のキャリア発達を見据えて指導の実現と社会参加に向けた継続した指導	義務教育段階からの一貫したキャリア教育の充実	○自己をみつめる振り返り活動について ○児童生徒の実態に応じたキャリア教育
5	自立活動	多様な教育的ニーズのある児童生徒の可能性を引き出す自立活動	一人一人の自立と社会参加を見据えた指導	一人ひとりの教育的ニーズに応じた知的障害児に必要な自立活動の指導	○子どもの「やってみよう」を引き出す指導の在り方 ○一人一人に応じた自立活動の計画
6	交流及び共同学習	共生社会の実現に向けて、相互に理解を深め合う交流及び共同学習のあり方	一人一人の良さを認め合う交流及び共同学習の実現	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習	○豊かな関わりを育み、双方に学びのある交流及び共同学習の在り方 ○ねらいを明確にし、組織的に行う交流及び共同学習の在り方

【作成要領】

- 研究大会の大会主題に照らして事務局がテーマを検討・設定し、評議員会にて提案する。
- 学習指導要領の内容や九特連・全特連の分科会テーマを参考にする。

【備考】令和5年度第3回評議員会にて分科会テーマの再編が行われいている。令和6年度から再編された分科会のもと提案する。

議題⑥-3 今年度の研究大会 分科会役割分担

分科会		テーマ	提案①	提案②	司会	記録	運営	助言
			特別支援学校	小・中学校				
1	各教科の指導 (小学校段階)	各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別の指導の在り方	西崎特支	中頭地区 小学校	名護特支	那浦地区 小学校	みらい支援	検討中
						中頭地区 小学校	〈会場〉 美咲特支	
2	各教科の指導 (中学校・高等学校段階)	各学校間の学びの接続を意識した教科別の指導の在り方	みらい支援	宮古地区 中学校	島尻特支	国頭地区 中学校	西崎特支	検討中
						島尻地区 中学校	〈会場〉 美咲特支	
3	各教科等を合わせた指導	生活年齢に応じた生活に必要な生きる力の育成を目指した各教科等を合わせた指導	大平特支	那浦地区 中学校	はなさき支援	中頭地区 小学校	名護特支	検討中
	特別の教科 道徳・ 特別活動・総合的な学習	社会生活に必要な基礎的な部分の定着及び個性の充実を目指す授業づくり				中頭地区 中学校	〈会場〉 美咲特支	
4	キャリア教育・進路指導	義務教育段階からの一貫したキャリア教育の充実	はなさき支援	那覇地区 小学校	西崎特支	島尻地区 小学校	高等特支	検討中
						那浦地区 中学校	〈会場〉 美咲特支	
5	自立活動	一人ひとりの教育的ニーズに応じた知的障害児に必要な自立活動の指導	島尻特支	八重山地区 中学校	高等特支	国頭地区 小学校	大平特支	検討中
						中頭地区 中学校	〈会場〉 美咲特支	
6	交流及び共同学習	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習	南風原高支	国頭地区 小学校	みらい支援	島尻地区 小学校	島尻特支	検討中
						那浦地区 中学校	〈会場〉 美咲特支	
								検討中

配分の目安					
支部	R6学級数	提案	司会・記録・運営		
国頭 小	45	1	2	1	
国頭 中	25	0		1	
中頭 小	156	1	4	2	
中頭 中	67	0		2	
浦添 小	21	0	0	0	
那覇 小	71	1	0	0	
那浦 小	92	1	3	1	
那浦 中	43	1		2	
島尻 小	70	0	3	2	
島尻 中	31	0		1	
宮古 小	20	0	0	0	
宮古 中	10	1		0	
八重山小	22	0	0	0	
八重山中	12	1		0	
名護特支	37	0		2	
美咲特支	86	0		0	
はなさき支援	41	1		1	
高等特支	15	0		2	
大平特支	61	1		1	
島尻特支	76	1		2	
みらい支援	32	1		2	
西崎特支	48	1		2	
宮古特支	26	0		0	
八重山特支	19	0		0	
中農高支	3	0		0	
陽明高支	6	0		0	
南風原高支	6	0		0	
やえせ高支	3	0		0	

【作成要領】

- (1) 沖特研の「研究大会 分科会提案者 割り当て表」を参照し配分する
- (2) 司会及び運営は特別支援学校、記録は小・中学校、運営は小・中学校が担当する
- (3) 宮古地区・八重山地区の小・中学校および特別支援学校については、提案以外の割り当てを配慮する ※令和5年度第3回評議員会で議決済
- (4) 高等支援学校4校については、学級数が少ないため提案者以外の割り当てを配慮する

【備考】

- ・運営に事務局校の名護特支をそれぞれ追加し会場の管理を行う
- ・9月上旬を目途に提案者と各係の氏名報告、また提案者の提案内容についてご報告をお願いいたします(詳細は後日文書にて)
- ・「司会」の係を一人とする(事前に参加ができないことが分かれば担当支部で代理を立て、急きょ参加できなくなった際は事務局から代理で行う)

議題⑦ 令和12年度までの分科会提案割当

	分科会名	令和3年度	令和4年度	分科会名	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
		第49回	第50回		第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回
1	日常生活の指導・寄宿舎指導・自立活動	八重山特支	島尻地区小学校	各教科等の指導(小学校段階)	島尻特支	はなさき支援	西崎特支	大平特支	名護特支	八重山特支	美咲特支	西崎特支
		国頭地区中学校	浦添地区小学校		中頭地区小学校	宮古地区小学校	中頭地区小学校	国頭地区小学校	島尻地区小学校	那覇地区小学校	国頭地区小学校	八重山地区小学校
2	生活単元学習	名護特支	宮古地区中学校	各教科等の指導(中学校・高等学校段階)	宮古特支	島尻特支	みらい支援	高等特支	美咲特支	やえせ高支	はなさき支援	宮古特支
		島尻特支	大平特支		中頭地区中学校	国頭地区中学校	宮古地区中学校	中頭地区中学校	島尻地区中学校	中頭地区中学校	那浦地区中学校	国頭地区中学校
3	作業学習・キャリア教育	宮古特支	九特連の分科会に準ずる(別紙参照)	各教科等を合わせた指導/特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習	大平特支	大平特支	大平特支	西崎特支	みらい支援	宮古特支	大平特支	名護特支
		西崎特支			国頭地区小学校	浦添地区小学校	那浦地区中学校	八重山地区小学校	那覇地区小学校	島尻地区小学校	中頭地区小学校	中頭地区中学校
4	教科別指導	美咲特支		キャリア教育・進路指導	名護特支	高等特支	はなさき支援	中部農林高支	島尻特支	陽明高支	島尻特支	美咲特支
		島尻地区小学校			八重山地区中学校	中頭地区中学校	那覇地区小学校	中頭地区小学校	中頭地区中学校	那浦地区中学校	島尻地区中学校	中頭地区小学校
5	自閉症・発達障害への支援	高等特支		自立活動	美咲特支	美咲特支	島尻特支	名護特支	西崎特支	みらい支援	みらい支援	はなさき支援
		大平特支	はなさき支援		島尻地区中学校	中頭地区小学校	八重山地区中学校	那浦地区中学校	国頭地区小学校	中頭地区小学校	島尻地区小学校	那浦地区小学校
6	交流および共同学習	はなさき支援	島尻特支	交流及び共同学習	高等特支	八重山特支	南風原高支※	みらい支援	大平特支※	美咲特支	陽明高支	大平特支
		那浦地区中学校	宮古特支		浦添地区小学校	島尻地区小学校	国頭地区小学校	那覇地区小学校	八重山地区小学校	国頭地区小学校	宮古地区小学校	島尻地区小学校
7	早期教育	美咲特支	課題別テーマ 自閉症支援・早期教育・※ 寄宿舎指導・ICTほか	西崎特支	事務局が課題に応じて依頼							
		のびる保育園		名護特支※	事務局が課題に応じて依頼							
事務局		大平特支			名護特支		美咲特支		はなさき支援		沖高特	

R5課題別
テーマ
「ICT」

令和3年度～令和12年度 割り当て実績			
支部・校種	評議員数	提案枠	
国頭 小	45	10	6
国頭 中	25		4
中頭 小	156	14	8
中頭 中	67		6
浦添 小	21	3	3
那覇 小	71	4	4
那浦 小		1	1
那浦 中	43	5	5
島尻 小	70	10	7
島尻 中	31		3
宮古 小	20	4	2
宮古 中	10		2
八重山小	22	5	3
八重山中	12		2

名護特支	37		6
美咲特支	86		9
はなさき支援	41		6
高等特支	15		4
大平特支	61		9
島尻特支	76		7
みらい支援	32		5
西崎特支	48		6
宮古特支	26		5
八重山特支	19		3
中部農林高支	3		1
陽明高支	6		2
南風原高支	6		1
やえせ高支	3		1

【作成要領】

- (1) 提案者の割り当てにおいては、支部の学級数や割り当て実績(右表)を参照し配分する
- (2) 各分科会において、小・中学校と特別支援学校の提案を一律ずつ配分する
- (3) 事務局を交代した年度に、古い順から2年度分を削除し新たに2年度分を追加して提案する

【備考】

- ・令和10年度までの提案者は、昨年度までに議決済み
- ・提案以外(司会・記録・運営)については別紙にて割り当て
- ・編みかけのセルの提案者は、同年度に開催される九特連・全特連研究大会の提案を兼ねる(但し、※印については開催県がテーマを設定することになっており現時点でテーマは決まっていない)
- ・令和2年度の研究大会は中止のため実績としてカウントしないが、令和4年度の九特連(沖縄大会)はカウントする
- ・令和5年度九特連研究大会において第7分科会のテーマが「人材育成」となったためはごろも小学校が提案を行う。したがって中頭地区小学校に提案割り当て実績1カウント追加する
- ・令和6年度の九特連提案は佐賀県事務局の意向により提案割当に変更があったため、提案割当に変更を加える。R6年度網かけ支部(国頭地区中学校、美咲特支)に提案実績として2カウントする
- ・令和6年度より第3分科会を「各教科等を合わせた指導/特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習」とする(令和5年度第3回評議員会で議決済み)
- ・令和6年度より第7分科会(課題別テーマ)は原則設定しない。ただし、事務局校が必要に応じて設定する場合は事務局が課題に応じて提案者を選出・依頼する。九特連研究大会での提案が第7分科会で割り当てられている場合は事務局が課題に応じて提案者を選出、依頼する。(令和5年度第3回評議員会で議決済み)

分科会の持ち方について

R 7 年度

- ・ 第 1 ～ 6 分科会設置
- ・ 提案者は分科会の内容に沿った実践・取り組みを見開き 2 ページにまとめ、当日 20 分で発表。
- ・ 各分科会、提案者は 2 名。指導助言者 1 名。
そのほか司会、記録、運営の係を各支部割り当て進行。
- ・ 今年度、各提案者は 20 分打ち発表、15 分の質疑応答、分科会の後半で分科会の内容に沿った指導助言を 30 分程度いただく。
- ・ 参加者は提案者や指導助言者の発表を聞いて、感想を述べたり質問をしたりする。

R 6 年度より

分科会提案割り当ては議決決済のものをそのまま活用する。(1 テーマにつき特支 1、小中支部 1)

- ・ 提案割り当てになっている支部は分科会のテーマに沿った実践事例を原則 3 つ以上もってくる
(実践内容や取り組む上で困っていること、悩みや教材の紹介などを記入できるようにする。
- ・ 参加者にも自分の実践例や実践上の悩みを持ってきていただくよう呼びかけはする。(任意)
- ・ 持ちよった実践事例や分科会討議の柱(事務局が提案したものや分科会係内で決めても良い)を通して協議を深める。

→各学校・参加者が実践するうえで困っていることや悩みを共有したり、さまざまな実践事例に触れたりし、今後の指導のヒントを得る。

○指導助言者には、分科会のテーマに沿った内容の講話をしていただき協議の様子等から指導助言をいただく。

※従来形式での提案をご希望であればそれでもよい。→その場合は事務局長までご一報ください。

九特連での提案について

- ・ 九特連での提案割当ての輪番はそのままにする。
- ・ 九特連での提案を兼ねる支部は、沖特研での提案も九特連提案の様式のままでよい。

参加する各分科会名とテーマをそのまま書く

〇〇学校・役職・名前

1. 実践について

(2) 取り組みの内容（取り組み事例、対象、方法など）

2. 成果と課題・改善策（共有したい悩み）など （取り組みについての評価等）

(3) 共有したい悩み

() 分科会「各教科の指導（小学校段階）」

テーマ：各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

〇〇特別支援学校 教諭 〇〇〇〇

事例：「教科書を活用した国語の授業」

1. 実践について

(1) 実践のねらい

系統立てられている『☆本』や『ゆっくり学ぶ子のための』の教科書を使用することで、子どもたちの段階目標に応じた授業を行うことができる。

(2) 取組の内容（取組事例、対象、方法等）

対象：小学部6年 小学部2段階目標の児童5名

方法：☆本を活用しての授業

取り組み事例：小学部6年生なので小学部3段階の学習を履修しながら、個人目標を小学部2段階に設定している児童に対する国語の授業で行った。

例えば、『かめのこ。いしのうえ。』では「A聞くこと・話すこと3段階目標 カ 相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。」の目標を「相手の話に関心を持ち、相手の考えを受け止めることができる。」として、「うえ」「した」助詞の「の」を学習した。相手の考えを受け止める活動を深めるため宝探しの活動を行った。その際に「机のした」や「棚のうえ」など学習した内容と日常に使う単語とを組み合わせることで生活に根ざした授業づくりになることを意識した。

2. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

（取組についての評価等）

(1) 成果

- ・教科書に沿って進めることで系統立てて指導することが容易になった。
- ・教えた内容が分かりやすいため、授業準備や教材教具の研究時間が短くなり、子どもたちに関わる時間が増えた。
- ・引き継ぎの際にどこまでやったかの確認がしやすい。
- ・年間を通しての授業の見通しがもちやすい。

(2) 課題

- ・教科書（☆本やゆっくり学ぶこの）が無い教科はどうするか。
- ・教科書の内容だけでは理解が難しい時に、学びを深めるための活動を考える必要がある。
- ・同単元異目標の子どもたちに合う授業展開を考えるのが難しかった。

(3) 共有したい悩み

- ・内言語はあるが、発語が少ない児童に対してどのようなアプローチをしているか知りたい。
- ・生活年齢に合わせた指導の中で段階を落とした目標の子たちの活動はどのようにしているか。待つ時間が長くなってしまう。

() 分科会「各教科の指導(小学校段階)」

テーマ：各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

〇〇特別支援学校 教諭 〇〇〇〇

事例：「教科横断的な指導について」

1. 実践について

(1) 実践

学習指導要領内容の効果的で効率的な学びに向けての実践

(2) 取組の内容(取組事例、対象、方法等)

小学部6年生

〈行事に向けての授業展開〉

修学旅行に向けて、生活科(日課・予定、役割、基本的生活習慣)・算数科(時計)・国語科(聞くこと・話すこと)・図工(A表現ア(イ))・特別の教科 道徳(主として人との関わりに関する事)などを同時期に実施。

2. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

(1) 成果

従来の生活単元学習での取り組みから教科の視点での行事への取り組み方を考えた。教科の資質能力を明確にして指導することができた。

(2) 課題

年計を立てる段階で教科等横断的な視点をもって編成できたらより色々な教科等を関連させて授業を行えたのではないかな。

(3) 共有したい悩み

前年度担当の教員が作成した年計を今年度、特に引き継ぎがないなどの理由で新しい教員が指導する場合に授業構成するにあたり難しいことがある。他校の年計作成の方法が知りたい。

() 分科会「各教科の指導（小学校段階）」

テーマ：各学年の学びの連続性と系統的な学習内容による教科別指導の在り方

〇〇特別支援学校 教諭 〇〇〇〇

事例：「 算数：かぞえよう～100までのかず～」

1. 実践について

(1) 対象児童 小学部3段階 小学部5年生4名（算数専科抽出）

(2) 単元について

①教科・単元名： 算数・かぞえよう～100までのかず～（さんすう☆☆☆）

※前単元は「かぞえてみよう～20までのかず(10といくつ)～」

②単元の目標・評価規準

単元の目標	評価規準
(知・技) ・100までの数について、数唱を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解することができる。(小3段階Aア(ア)㉞) ・数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすることができる。(小3段階Aア(ア)㉞) (思判表力) ・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。(小3段階Aア(イ)㉞) (学・人) ・数量の違いを理解し、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶことができる。(小3段階)	(知・技) ・100までの数について、数唱を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解している。 ・数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりしている。 (思判表力) ・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、数学的な表現を用いて表している。 (学・人) ・数量の違いを理解し、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする姿が見られる。

③単元のおおまかな流れと使用教材

単元のおおまかな流れ	使用教材
①大きなかずのかきかた（さんすう☆☆☆p16,17） ・20以上あるものを10のまとまりと残りの「あといくつ」に分けて数え、その数を言えるようにする。 ・十進法位取り記数法を学び21以上の数についてその数の大きさが分かり、読んだり書いたりすることができるようにする。 ②じゅんばんにならべましょう（算数☆☆☆p13-21） ・20以上の数を順番に数唱したり書いたりする経験を重ね数の数列の理解につなげる。 ③10のまとまり（さんすう☆☆☆p26-27） ・10を一つのまとまりとして意識し、いろいろなものを10のまとまりとして数える。 ・数の操作をしながら数あるまとまりで捉える。	○さんすう☆☆☆(p16-) ○ブロック(1ずつのブロックと10のまとまりのブロックカード) ○机上用ホワイトボード ○たくさんの絵カード（身の回りのものを数える） ○学習プリント など

④本単元の学習活動について

- ・実物や絵カード等を用いて実際に多くのものを数えたり、数を比べたりする経験を重ねる。
- ・具体物や半具体物を実際に操作し、数をまとまりで数えることに慣れるようにする。
- ・1～100までの数唱をしたり書き表したりすることを通して数の数列に慣れる。(前後の数字からあてはまる数字を推測したり、連続する数の並びを推測したりする。)

- ・多くのものを数えるときは、10 個ずつまとめるとより正確に早く数えられることに気付けるようにする。(場合によっては5 飛びや2 飛びで数える方法があることも指導する。)
- ・10 を単位とした見方は金銭の理解につながるため、お金(硬貨)を数えるなど、算数の学習と日々の生活とを関連付け、児童が算数を学ぶよさを実感できるようにする。
- ・いろいろなものを数える経験を通してものによって「個」「本」「枚」「匹」などのように数え方が異なることに気づき、数助詞を用いて表現する活動を取り入れる。

⑤本単元における児童の評価(一部抜粋)

(知・技)単元「かぞえよう～100 までのかず～」では、いろいろなものの個数を数えながら100 までの数の数唱をしたり、表に書き表したりする活動に取り組んだ。たくさん数を数える経験を重ねることで、数の系列を理解し、0～100 までの数の表の穴埋めをすることができた。

(思・判・表)単元「かぞえよう～100 までのかず～」において20 個以上あるたくさんものを数えたり、100 までの数をブロックで表したりする学習に取り組んだ。ブロックを操作しながら数を表すことで、10 のまとまりが何個、端数が何個で「何十何」と表すことができるようになった。また、教師と一緒に10 までの端数を「2、4、6 …」と2 ずつ数え、手際よく数える方法があることに気付くことができた。

2. 成果と今後の課題・共有したい悩みなど

(1) 成果

- ・前単元(20 までの数(「10 のまとまりとあといくつ」))を経ての学習だったので、20 以上の数でも、10 のまとまりで数えることにあまり抵抗感なく取り組むことができた。

- ・半具体物を用いて数え、実際にブロック等を操作しながらことで児童にとって理解しやすかったと考える。



(例「64 は⑩が何個と①が何個?」や「⑩が6 個と①が4 個で何?」などの質問に答えられるようになってきた)

(2) 課題

- ・日常の中で学んだことを生かす場面を十分に設定できなかった。日常の場面で学んだことを生かす経験ができると、より学習内容が定着し学習意欲の向上につながったかもしれない。

(生活の中でたくさん数を数える経験、実際に硬貨を扱い買い物学習をするなど)

(3) 共有したい悩み

- ・どこまでを「できた」として判断して、学習を進めていくかの判断が難しいときがある。

例えば、計画の段階で単元の時数を決めているが、もう少しやったら定着しそうだから授業時数を増やしてやってみよう、これ以上は難しそう(評価規準を十分に達成はできていないけど・・・)だから次の単元に進もうの判断。

- ・小学部5・6 年生が小学部3 段階(さんすう☆☆☆)の内容を履修するが、小学部5 年生で一通り学習し、小学部6 年生でも同じ単元を繰り返し(児童の実態をみながら学習内容は深めつつ)学習するという考え方で良いのか。

- ・10 以上の数の理解が難しい児童に小学部3 段階の内容をどう取り扱っていくか。

(障害が重い子どもへの教科のアプローチ)

テーマ
～サブテーマ～

所属■■役職■■氏名■■

Keyword : ○○○○, ○○○○, ○○○○

I ■ 目的

1. はじめに (問題の所在)

A 10x20 grid of circles. The top-left circle is filled black, and all other circles are white with black outlines.

2. 研究の目的

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

II ■ 方法

1. 対象児について

(1) 行動観察

(2) 聞き取り調査

A progress bar consisting of a 5x20 grid of circles. The first circle in the top row is filled black, representing 1% completion. All other circles are empty.

(3) 諸検査の結果

A progress bar consisting of a 5x20 grid of circles. The first circle in the top row is filled black, representing 1% completion. All other circles are empty.



図1 ■図のタイトル

2. 研究の計画

表1 ■表のタイトル

1 学期	2 学期	3 学期
● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○
● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○
● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○
● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○
● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○	● ○ ○ ○ ○ ○

III ■ 結果

A 15x20 grid of circles. The top-left circle is filled black, and all other circles are empty. This represents the number 15 in base 20.

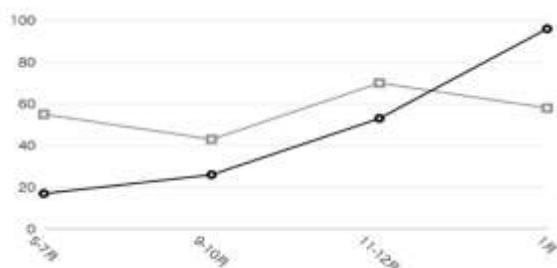


図2■図のタイトル

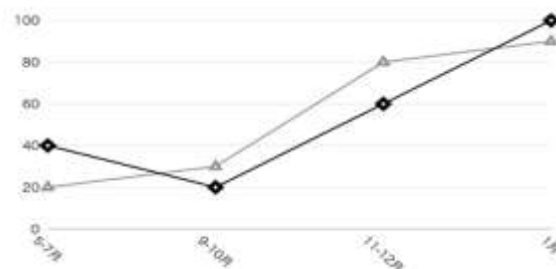


図3■図のタイトル

IV ■ 考察

A 20x20 grid of circles. The top-left circle is filled black, and all other circles are empty.

《引用·参考文献》

- ・ 著者や編者『書籍のタイトル』, pp〇〇-〇〇, 出版社, 2019
- ・ 著者「論文のタイトル」『雑誌等のタイトル』, pp〇〇-〇〇, 出版社, 2021

テーマ：○○○○○○○○○○○○○○○○○○

運営：〇〇〇〇（〇〇特支）・〇〇〇〇（〇〇特支）

記録：〇〇〇〇（〇〇小）・〇〇〇〇（〇〇中）

1. 实践事例

(1) 名前 (〇〇特支)

[illegible]

〈討議の内容〉

- ・質疑応答の様子や協議した内容を記録する。
-

事例 2: ○○○○○○○○○○（事例 2 の概要）

〈討議の内容〉

- [illegible]

事例 3 : ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（事例 3 の概要）

〈討議の内容〉

- [illegible]

(2) 名前 (○○小)

[illegible]

〈討議の内容〉

- ・質疑応答の様子や協議した内容を記録する。
- ・○○

事例 2 : ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（事例 2 の概要）

〈討議の内容〉

- [illegible]

[illegible]

〈討議の内容〉

- [illegible]

2. その他の協議事項 (※上の事例以外に討議した内容があれば記入)

(1) 名前 (学校)

事例：○○○○（事例の概要）

〈討議の内容〉

- ・質疑応答の様子や協議した内容を記録する。

(1) 討議の柱：○○○○○

〈討議の内容〉

どちらの形式でもよいです。
分科会の内容に沿った記録をお願いします。

3. 指導助言

- ・ 所属 ・ 役職 ・ 名前

- ○○○○○○○○○

連絡事項① 沖特研・九特連事務局輪番の確認

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
沖特研	第 51 回	第 52 回	第 53 回	第 54 回	第 55 回	第 56 回	第 57 回	第 58 回
	名護	名護	美咲	美咲	はなさき	はなさき	沖高特	沖高特
九特連	第 57 回	第 58 回	第 59 回	第 60 回	第 61 回	第 62 回	第 63 回	第 64 回
	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
	令和 13 年度	令和 14 年度	令和 15 年度	令和 16 年度	令和 17 年度	令和 18 年度	令和 19 年度	令和 20 年度
沖特研	第 59 回	第 60 回	第 61 回	第 62 回	第 63 回	第 64 回	第 65 回	第 66 回
	西崎	西崎	島尻	島尻	那覇みらい	那覇みらい	大平	大平
九特連	第 65 回	第 66 回	第 67 回	第 68 回	第 69 回	第 70 回	第 71 回	第 72 回
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
	令和 21 年度	令和 22 年度	令和 23 年度	令和 24 年度	令和 25 年度	令和 26 年度	令和 27 年度	令和 28 年度
沖特研	第 67 回	第 68 回	第 69 回	第 70 回	第 71 回	第 72 回	第 73 回	第 74 回
	名護	名護	美咲	美咲	R10 新設校	R10 新設校	はなさき	はなさき
九特連	第 73 回	第 74 回	第 75 回	第 76 回	第 77 回	第 78 回	第 79 回	第 80 回
	福岡	佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄

※過去の開催校：平成 10 年度（全特連・九特連）大平、平成 18 年度（九特連）西崎、平成 26 年度（九特連）美咲、令和 4 年度（九特連）大平

※網掛け部分：九特連大会の年及び第 60 回・70 回の沖特研記念大会の年となります

【作成要領】

- (1) 宮古特支、八重山特支、高等支援（南風原・陽明・やえせ・中農）は事務局輪番より除く
- (2) 九州大会（大会日程・全体会場の検討及び決定、旅行社との調整等）は開催 2 年前から準備が必要なため、当該年度の事務局は開催年度の評議員と協力をしながら準備を進める
- (3) 令和 13 年度までの県立特別支援学校編成整備計画より、令和 10 年度に中頭地区に知的障害特別支援学校を新たに開校予定とある為、那覇みらい支援の開校時における対応に倣い、令和 17・18 年度に新設校を輪番に加える

関係各位

令和7年度 第59回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「長崎大会」第一次案内

大会主題

共生社会の中で多様な子供の可能性を引き出す特別支援教育の推進 ～学びの連続性と学びの場の充実に向けて～

- 1 期 日 令和7年 8月 1日(金)
- 2 会 場 アルカスSASEBO (佐世保市三浦町2-3 TEL 0956-42-1111)
- 3 開催方法 集合型とオンライン(オンデマンド)型を組み合わせたハイブリッド形式
(第36回長崎県特別支援教育研究会研究大会を誌上で同時開催)
- 4 参加費 2,000円(予定:資料代を含む) 集合型、オンライン型とも ※長特研会員は1,000円
※大会要項は、当日冊子で配付するとともに、ホームページにも掲載します。
※大会集録は、大会終了後、ホームページに掲載します。

5 日 程
9:00 9:30 9:50 12:00 13:00 16:00 16:20

受付 開場	開会 行事	記念講演	昼食 休憩	分科会	閉会 行事等
----------	----------	------	----------	-----	-----------

6 分科会

分科会	提案① (特支)	提案② (小中)	司会	記録	指導助言
1 各教科等の指導(小学校段階) テーマ:学習内容の系統性や(他教科等との)関連性を踏まえた教科別指導のあり方	佐賀	大分	佐賀 長崎	長崎	佐賀 長崎
2 各教科等の指導(中学校・高等学校段階) テーマ:学習内容の系統性や(他教科等との)関連性を踏まえた教科別指導のあり方	大分	宮崎	大分 長崎	長崎	大分 長崎
3 各教科等を合わせた指導 テーマ:一人一人の児童生徒の生きる力を育む各教科等を合わせた指導のあり方	宮崎	鹿児島	宮崎 長崎	長崎	宮崎 長崎
4 キャリア教育・進路指導 テーマ:児童生徒がやりがいをもって自己のキャリアを形成し、主体的に自立と社会参加を目指すための進路指導のあり方について	鹿児島	熊本	鹿児島 長崎	長崎	鹿児島 長崎
5 自立活動 テーマ:多様な教育的ニーズのある児童生徒の可能性を引き出す自立活動	熊本	沖縄	熊本 長崎	長崎	熊本 長崎
6 交流及び共同学習 テーマ:共生社会の実現に向けて、相互に理解を深め合う交流及び共同学習のあり方	沖縄	福岡	沖縄 長崎	長崎	沖縄 長崎
7 発達障害への指導・支援 テーマ:様々な学びの場における、個に応じた適切な指導・支援のあり方	福岡	佐賀	福岡 長崎	長崎	福岡 長崎

7 記念講演

演題(仮) 「多様な子供へのキャリア発達支援と評価～キャリアパスポートの活用を通して～」
講師 菊地 一文氏 (弘前大学大学院 教育学研究科教職実践専攻 教授)

【大会事務局】

九州地区特別支援教育研究連盟研究大会長崎大会事務局 長崎県立佐世保特別支援学校内

〒858-0911 佐世保市竹辺町 810 TEL:0956-47-6474 FAX:0956-47-8756

事務局長 前田 憲吾 事務局次長 戸村 文夫

長崎県特別支援教育研究会のページ <https://choutokuken.com>

九特連
九州地区特別支援教育研究連盟

連絡事項③

第 64 回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会

第 47 回北海道特別支援教育研究協議会全道大会

第 73 回北海道特別支援学級教育研究連盟全道大会

第 64 回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会

〈第一次案内〉

「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」

令和 7 年 10 月 23 日（木）・24 日（金）

第 64 回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会を次の要領にて開催いたしますことを御案内申し上げます。

季節ごとに様々な魅力のある北海道ではありますが、10 月は、美しい紅葉が広がり、旬のおいしい食べ物も堪能いただける最高の季節です。そんな秋の魅力が溢れる時期に、全国各地から特別支援教育に関わる多くの方々に参集いただき、大会主題を「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」として、各校の教育実践や情報交流等が深まり、幼児児童生徒一人一人に応じた特別支援教育の充実につながる大会となることを楽しみに、北海道の地でお待ちしております。

令和 7 年 2 月 吉日

全日本特別支援教育研究連盟 理事長 名古屋 恒 彦

第 64 回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会 実行委員長 山 本 貴 路

主 催

全日本特別支援教育研究連盟 北海道特別支援教育研究協議会 北海道特別支援学級教育研究連盟

後 援（予定）

文部科学省 こども家庭庁 全国都道府県教育委員会連合会 全国国公立幼稚園・子ども園長会
全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国特別支援学校長会
全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 全国特別支援学校知的障害教育校長会
全国特別支援教育推進連盟 公益財団法人日本知的障害者福祉協会
全国手をつなぐ育成会連合会 公益社団法人日本発達障害連盟 日本発達障害学会
北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会
北海道高等学校長協会 北海道特別支援学校長会 北海道国公立幼稚園・こども園長協議会
北海道特別支援学校知的障害教育校長会 北海道特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
札幌市小学校長会 札幌市中学校長会 札幌市立高等学校・特別支援学校長会
札幌市立幼稚園・こども園長会 札幌市立特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
社会福祉法人北海道手をつなぐ育成会 公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部

大会開催要項

1 大会主題

「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」

2 趣 旨

インクルーシブ教育システムを構築し、特別支援教育を進展させていくためには、障がいのある子供と障がいのない子供が可能な限りともに教育を受けられる学びの場を整えることが求められています。そのために、障がいのある子供の自立と社会参加を見据えて、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、連続性のある多様な学びの場の一層の充実を図ることが必要と考えます。具体的に、指導方法や指導体制、施設環境など障がいのある子供の学びの場の整備、特別支援教育に関わる教職員の専門性の向上、1人1台端末の最新のICT機器の活用、関係機関の連携強化による切れ目ない支援体制の在り方など、インクルーシブ教育の実現に向け検討しなければならないことがあります。

そこで、本大会では、大会主題を「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」とし、特別支援教育の今後の在り方を全国各地の皆様と研究協議を深め、子供たち一人一人が自分らしい人生を歩んでいけるための特別支援教育の更なる発展・充実につながる大会を目指しています。

3 大会期日

令和7年10月23日（木）・24日（金）

4 会 場

1日目 全体会	カナモトホール（札幌市民ホール） 大ホール （ 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目）
理事・評議員研究協議会 レセプション	カナモトホール第1会議室 ホテルライフオート札幌 ライフオートホール （ 064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-30）
2日目 学校（園）見学	札幌市の幼稚園、小・中学校（特別支援学級）、特別支援学校（義務校、高等支援校）、高等学校
分科会	カナモトホール ホテルライフオート札幌 かでの2.7（北海道立道民活動センター） （ 060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 ）

5 参 加 者

全日本特別支援教育研究連盟構成団体会員

幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校・大学の教職員、特別支援教育研究者、関係団体の方、特別支援教育に関心のある方

6 日程

1日目 10/23(木)

9:20	9:50	10:40	12:00	13:30	14:45	16:15	16:30	17:45	18:30	20:30
受付	開会式 表彰式	研究報告	昼食	基調報告 行政説明	記念講演	閉会式	理事・評議員 研究協議会	移動	レセプション	

2日目 10/24(金)

8:40	9:20	11:00	13:00	15:00	15:15
受付	学校見学	移動 昼食	分科会	閉会行事	

7 記念講演演題：(仮)「一人一人の良さや強みを生かした、子供主体の学びの実現」

～一人一人に合った学びの場や授業づくり～

講師：広島都市学園大学 教授 竹林地 毅 様

8 研究報告三木安正記念研究奨励賞受賞者：(未定)

北海道特別支援教育センター：(予定)

9 分科会

No	分科会名	テーマ	討議の柱	提案者
1	就学進学相談・支援の在り方（幼小中高連携）	一人一人の教育的ニーズを踏まえた相談、就学、進級、進学の適正な相談、支援	○本人・保護者との合意形成に向けた支援 ○早期からの一貫した指導・支援に向けた情報共有のための工夫	宮城県 北海道
2	通常の学級における合理的配慮	一人一人に合った学校全体で取り組む合理的配慮	○「学びやすさ」をつくる校内支援体制（校内連携） ○一人一人の学びにつながる合理的配慮の提供と評価	神奈川県 北海道
3	高等学校における特別支援教育	高等学校における一人一人に応じた指導及び、地域の特色を生かした指導の充実	○特別支援教育の視点を生かした指導・支援 ○進路決定、自立に向けた支援の在り方	石川県 北海道
4	通級による指導	一人一人の特性に応じた指導の実現に向けた通級指導と通常学級の連携	○一人一人の教育的ニーズに応じた効果的指導の在り方 ○在籍学級(校)や関係機関との効果的連携に向けた方法と課題	宮城県 北海道
5	教科別の指導① (小学校、小学段階)	一人一人の資質・能力の育成を目指す授業づくり	○自分のよさを実感し、社会で生きる資質・能力の育成 ○個に応じた指導方法の工夫と学習評価の充実	滋賀県 北海道
6	教科別の指導② (中学校、中・高等段階)	一人一人の資質・能力の育成を目指す授業づくり	○自分のよさを実感し、社会で生きる資質・能力の育成 ○個に応じた指導方法の工夫と学習評価の充実	大分県 北海道

7	各教科等を合わせた指導①（作業学習）	一人一人の自立と社会参加に向けた働く力の育成と学びの連続性を意識した指導の実践	○見通しをもち、主体的に取り組むための指導 ○地域の特色を生かし、働く力を伸ばす指導の工夫	秋田県 北海道
8	各教科等を合わせた指導②（日常生活の指導、生活単元学習）	一人一人の自立と社会参加に向けた生活する力の育成と学びの連続性を意識した指導の実践	○見通しをもち、主体的に取り組むための指導 ○教科や他単位とのつながりのある学びに向けた取組	長野県 北海道
9	自立活動	一人一人の自立と社会参加を見据えた指導	○個に応じた指導方法の工夫と評価 ○良さを生かし意欲を引き出す取組の工夫	浜松市 北海道
10	キャリア教育	一人一人のキャリア発達を見据えた指導の実現と社会参加に向けた継続した指導	○自己肯定感と自己理解を促し、主体的な意思決定力を育むための指導・支援 ○生活年齢、発達段階に応じた指導内容	大阪市 北海道
11	不登校傾向の児童生徒への支援	一人一人に応じた理解と支援のための関係機関との連携	○対象児童生徒との関係づくりに向けた取組 ○保護者・地域・関係機関との連携の在り方	広島県 北海道
12	就労支援	就労継続に向けた一人一人の希望を叶える指導・支援	○「働き続ける」力を育てる就労支援 ○本人を中心とした関係機関との連携の在り方	長崎県 北海道
13	特別支援教育コーディネーターの役割と育成	一人一人の適性に応じた指導・支援につなげる校内支援体制の充実	○校内における支援体制の整備 ○支援をつなげるための地域資源の活用	宮城県 北海道
14	交流及び共同学習	一人一人の良さを認め合う交流及び共同学習の実現	○豊かな学び合いを深めるための取組の工夫 ○保護者、居住地校等との連携方法	高知県 北海道
15	障がい者スポーツ・文化芸術活動	一人一人の生涯に渡る生活の充実	○豊かな人生につながる活動の充実 ○活動のネットワークづくりに向けた取組	兵庫県 北海道

10 学校（園）見学（予定）

- (1) 札幌市立中央幼稚園（札幌市中央区北 2 条西 11 丁目）
- (2) 札幌市立栄町小学校（札幌市東区北 36 条東 13 丁目 3-1）
- (3) 札幌市立中央小学校（札幌市中央区大通東 6 丁目 12）
- (4) 札幌市立中央中学校（札幌市中央区北 4 条東 3 丁目 1-1）
- (5) 札幌市立栄町中学校（札幌市東区北 36 条東 14 丁目 1-1）
- (6) 北海道札幌伏見支援学校（札幌市中央区伏見 4 丁目 4-21）
- (7) 北海道星置養護学校（札幌市手稲区星置 3 条 8 丁目 2-1）
- (8) 北海道星置養護学校ほしみ高等学園（札幌市手稲区手稲山口 740 番地 1）
- (9) 北海道札幌稲穂高等支援学校（札幌市手稲区稲穂 4 条 7 丁目 12-1）
- (10) 北海道札幌あいの里高等支援学校（札幌市北区あいの里 4 条 7 丁目 1-1）
- (11) 北海道札幌工業高等学校（札幌市北区北 20 条西 13 丁目）

11 経 費

大会参加費	4,500 円
大会収録費	2,000 円
レセプション参加費	7,000 円

12 ホームページ（予定）

第一次案内を全日本特別支援教育研究連盟のホームページに掲載しています。

<http://zentokurenhp.world.coocan.jp>

13 大会申込

大会申込は、第二次案内にてお知らせいたします。

14 大会事務局

〒061-1264 北海道北広島市輪厚 621-1

北海道白樺高等養護学校

TEL 011-376-2353

FAX 011-376-2024

Email hokutokuken@hokkaido-c.ed.jp

実行委員長 北海道白樺高等養護学校 校長 山 本 貴 路

事務局 長 北海道白樺高等養護学校 教頭 山 田 静

連絡事項④ 全特連功労者推薦について

1. 推薦の流れ

- (1) 各地区や特別支援学校で候補となる人物を推薦。(沖特研事務局へ、随時受付)
- (2) 推薦された人物について掌握し、会長・副会長・会長補佐・監事で協議して1名に絞る。
- (3) 推薦のあった地区・学校の代表者が推薦書を作成し、事務局が全特連へ6月上旬に報告する。

2. 推薦の条件（全特連「表彰に関する内規」より）

各都道府県（特別市）単位団体から推薦する候補者については、次の二つの要件を満たす者とする。

- (1) 特別支援教育関係の学校・学級・施設・団体・官公署等に10年以上勤務し、この教育の発展に多大の貢献をした者。
- (2) 本連盟ならびに単位団体の役員・事務局員等を5年以上つとめ、本連盟ならびに単位団体の活動の促進、組織の強化等に貢献した者。

※なお、功労者表彰推薦の時期に故人となられた方を推薦したい場合は、事前に本部事務局とご協議ください。

3. これまでの本会の推薦状況

年度	氏名	役職	年度	氏名	役職
平成14	田仲 康丈	県立名護養護学校校長	平成26	玉城 惇	県立鏡が丘特別支援学校校長
平成15	松島 朝重	県立鏡が丘養護学校校長	平成27	初鹿野 修	那覇市立金城小学校校長
平成16	金城 哲夫	玉城村立玉城中学校教諭	平成28	名嘉ゆり子	沖特研 那覇支部支部長
平成17	真玉橋初子	南城市立大里北小学校校長	平成29	玻名城安教	県立八重山特別支援学校校長
平成18	池保 節子	具志川市教育委員会 特殊教育指導員	平成30	新崎 每子	県立美咲特別支援学校校長
平成19	國場 厚子	県立西崎特別支援学校校長	令和元	該当者なし	
平成20	該当者なし		令和2	該当者なし	
平成21	該当者なし		令和3	該当者なし	
平成22	仲間 博史	県立島尻養護学校校長	令和4	當間 保	南風原町立南風原中学校校長
平成23	津嘉山信行	西原町立西原東中学校校長	令和5	大城 政之	浦添市教育委員会 就学指導員
平成24	新垣香代子	うるま市立あげな小学校教頭	令和6	城間 政次	県立沖縄高等特別支援学校校長
平成25	棚原 恵子	うるま市立具志川小学校校長	令和7	※岡越猛	※県立島尻特別支援学校

※令和7年度の全特連功労者推薦は島尻特別支援学校校長 岡越猛氏を推薦申請中

出席確認およびアンケート

以下のQRコードまたはURLからご回答下さい。回答は5分程度で完了します。ご協力をお願いいたします。なおここで集めた情報は、本研究会の運営以外の目的では一切使用いたしません。また頂戴した回答については、後日集約して大会ホームページにて公開いたします。



<https://forms.office.com/r/VPVImgE2G8>

問い合わせ

令和7・8年度 沖縄県特別支援教育研究会 事務局

事務局長 山田 義一

会計 嘉手納 貴弘

情報 西 萌子

庶務 宮城 雅貴



沖縄市美里4丁目18番1号 沖縄県立美咲特別支援学校内



okitokuken@as.open.ed.jp



098-938-1037



098-938-7700



<http://www.okitokuken-as.open.ed.jp>

